

# 地質情報展2005きょうと 特設コーナー 移動地質標本館と地質なんでも相談

谷田部信郎<sup>1)</sup>・青木 正博<sup>1)</sup>・坂野 靖行<sup>2)</sup>・利光 誠一<sup>2)</sup>

## 1. 移動地質標本館

京都大学で行われた「地質情報展2005きょうと」において、地質標本館は移動地質標本館コーナー、および地質なんでも相談コーナーを出展しました。移動地質標本館では、いつものように触れる標本と、開催地域に因んだ標本などを展示しました(写真1, 2)。触れる標本の目玉は、福島県石川町産の水晶(高さ約50cm, 重さ約35kg:写真1左下)と北海道産の巨大アンモナイト化石(直径50cm, 重さ73.2kg:写真2中央)です。この2つの標本はいつも来場者に人気があります。まず大きさに感動し、触ったり撫でたりして滑らかな感触にまた感動というわけです。

京都周辺地域に因んだ鉱物・鉱石標本として展示したものは以下の通りです。

- ・赤白珪石 兵庫県篠山市
- ・黄銅鉱・錫石・鉄マンガン重石 兵庫県生野町生野鉱山

- ・ろう石 兵庫県神崎町越智谷鉱山
- ・辰砂 奈良県菟田野町大和水銀鉱山
- ・黄銅鉱・黄鉄鉱 三重県紀和町紀州鉱山
- ・フズリナ類を含む石灰岩 滋賀県伊吹町伊吹山
- ・縞状炭マン 京都府美山町向山鉱山
- ・マンガン鉱床母岩チャート 京都府美山町新谷鉱山
- ・鉄マンガン重石 京都府和知町鐘打鉱山
- ・黄銅鉱 京都府大江町河守鉱山
- ・バラ輝石 京都府京北町新大谷鉱山
- ・陶石 京都府久美浜町海部陶石鉱山

今回の展示では、鉱物・鉱石標本は全て触れるように、カバーを掛けずに机の上に並べました。鉱物・鉱石の名称、産地のほか、鉱山の歴史と生産量、それぞれの鉱物・鉱石の特徴と用途、その標本の見どころなどを記述したラベルを添えました。

化石の展示では、触れるものとして、三葉虫(モロ

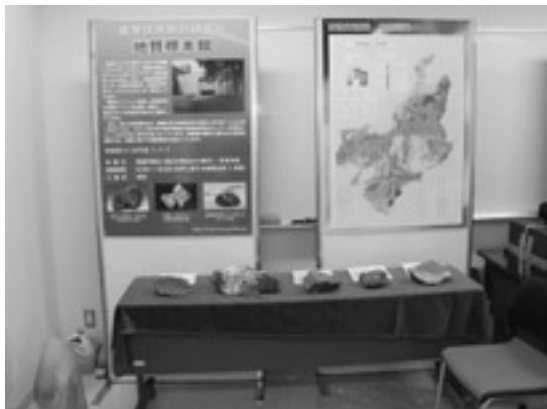


写真1 移動地質標本館の展示の一部。



写真2 移動地質標本館のほかの会場。

1) 産総研 地質標本館  
2) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: 移動地質標本館, 地質情報展, 鉱物, 化石, 地質何でも相談

ッコ産), ナウマンゾウの臼歯(つくば市産), 魚類(ブラジル産), 二枚貝類(北海道産)を展示しました。また, ショーケースに入れた状態で, メタセコイアの葉(神戸市産), デスマスチルスの頭骨(レプリカ, 北海道産), ナウマンゾウの臼歯(日本最大級標本のレプリカ, つくば市産)を展示しました。

このほか, 最近話題となっているアスベストの標本と解説ポスターも展示しました。標本から細かい繊維が飛散しないように, アクリルのカバーをかけて密封しました。アスベストが鉱物であることを知らなかった方も多く, 細い繊維状の標本を興味深そうにご覧になる方が多く見られました。

展示場所が石割りのコーナーと同じ部屋だったため, 石を割る大きな音に妨げられて展示を見ることに集中しにくい様子も窺われました。今後の地質情報展では, 会場のレイアウトにあたって, 落ち着いて標本が見られるように工夫したいと思います。

## 2. 地質なんでも相談

今までの地質情報展と同じように「地質なんでも相談」のコーナーを設けて, 来場者の質問を受けました。地質標本館長, 地質相談所長をはじめ, 会場内



写真3 地質なんでも相談のコーナーで, 小学生の質問に答える青木館長。

で説明に当たっていた専門分野の研究者が回答に当たりました(写真3)。

2日と半日の間に20件の相談が寄せられました。相談内容の内訳は, 地元のものを含めて岩石鑑定が8件, 京都市付近の活断層についてが3件, その他に化石の鑑定, 鉱床の作り方, 鉱物の定義・化学式や結晶構造などでした。

---

YATABE Nobuo, AOKI Masahiro, BANNO Yasuyuki and TOSHIMITSU Seiichi (2005) : Moving exhibition of The Geological Museum.

<受付: 2005年9月26日>